

生化学検査 検査項目解説③

Na (ナトリウム)

からだの水分の保持や浸透圧の調節(酸・塩基平衡)などの働きをしています。嘔吐、下痢、痙攣では低値になり、意識障害、筋肉硬直では高値になります。

K (カリウム)

腎臓の働きが悪くなると、体外に排泄できなくなり、高くなります。神経や筋肉の動きに関係し、特に心臓に大きな影響を与えます。

Cl (クロール)

クロール値はNa濃度と並行して変化します。嘔吐、下痢では低値になり、脱水症などで高値になります。

Ca (カルシウム)

骨や歯の形成に関わる電解質です。体内のカルシウムの約99%は骨や歯に蓄えられています。低値では甲状腺機能亢進症、サルコイドーシス、悪性腫瘍など、高値では副甲状腺機能亢進症、多発性骨髄腫、悪性腫瘍などが疑われます。

IP (無機リン)

リンはミネラルの一種で、カルシウムについて量が多いミネラルです。体内では85%が無機リンとして骨に存在しており、カルシウムと結合しています。ただし、無機リンには生理作用とは直接的な関係がないため、主に血液検査では、内分泌、骨代謝異常の有無をカルシウムとの関連性を調べる目的で検査されます。

尿素窒素

蛋白質が分解された老廃物です。腎臓の働きが悪くなると排泄されにくくなり高値となります。

クレアチニン

筋肉でエネルギー代謝の結果できた老廃物です。腎臓の働きが悪くなると排泄されにくくなり、血液中で増加します。

eGFR (推算糸球体濾過量)

腎臓にどれくらい老廃物を尿へ排泄する能力があるかを示した数字で、クレアチニン値から計算します。この値が低いほど腎臓の働きが悪いということになります。

BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) ←報告書右段中ほどにあります

BNPは心臓から分泌されるホルモンの一種で、心筋梗塞や心不全のような心臓に負担がかかった状態になると心臓(主に心室)から血液中に分泌されます。BNPの数値が高いということは、心臓に負担がかかっていることを意味します。